

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念に基づいて「その人らしくゆったりと～家庭的な環境と地域交流の中であたたかいケアを」という理念をかかげており、パンフレットに明記したり、ホーム内の共有空間に掲示して、利用者・家族・来苑者の目に付くようにしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者から職員へグループホームは地域密着のもと運営していることを、研修等で職員に伝え続けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議に家族や地域の代表者に参加していただき、グループホームが地域密着で運営されている事や事業所の運営について意見交換し理解を得ていかれるように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつをすることはもちろん、近隣の高齢者の方には、同敷地内のデイサービスを利用されているかたもおられるため、日常的に交流もとれている。また、行事ごとでは声をかけ参加も募っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会、老人会等にも入会し地域活動への参加に努めている。	○ 地域の行事に参加することが困難な利用者も多く、なかなか活動への参加が予定通りにできないことも多いので、今以上に参加に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通して地域の高齢者のことについては、話題に出て話し合いをすることもある。</p>	○	<p>運営推進会議で話し合うことはあるが、それを基にした取り組みは一部でしか行っていないため、広めていけるように努力していきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価での自己評価の内容や評価報告を全職員に通達すると共に、指摘された点も全職員に伝え、改善できることから早急に改善を行っている。</p>		
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議規程を準備し、2ヶ月ごとの会議を実施している。地域の民生委員・老人会・家族代表・行政等に参加を依頼している。グループホームの運営状況・行事報告・研修報告など伝え、意見交換をしている。</p>		
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>他の介護サービス事業も行っているため、行政に行き来することは多く、情報交換はおこなっている。</p>		
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の権利10か条をホーム内に掲示しており、権利擁護を促進する為に成年後見制度に関して学習している。研修等で職員との話し合いの場を設けている。</p>		
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>資料をもとに研修をおこない、どのようなことが虐待となり得るのかなど全職員で理解しあい、お互いに虐待とならないように注意し合い予防している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者等で契約に関する説明をおこない、質問に答え理解を得るようにしている。また、退居の際も、退居にあたっての説明をし、不明な点に関しても答えるようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営者・管理者等を窓口として苦情相談を受ける体制にしている。自ら言ってこられない方には、日々の個別対応や話しをする時間をもち聞き出ししたりして、必要に応じて職員での話し合いをしたりしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の日々の様子は写真におさめ、毎月発行の「苑たより」に掲載したり、コメントを書いたりしてお知らせしている。また、必要時には電話をするなどして随時状況報告をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に相談窓口記載のポスターを貼ったり、重要事項説明書に相談窓口を記載して説明もおこなっている。また、管理者等が個別に話をする中で、意見を受け運営改善につなげたりしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会社各部署ごとのミーティングなどで職員からの意見・提案を管理者でききいれ、さらに各部署管理者等の会議で意見交換し、施設長へ話しをするようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の緊急時対応や状況に応じて、普段の職員だけでなく管理者や主任を中心にして対応ができるよう、その都度話し合いをしたり、勤務調整をしたりしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>介護の質の向上を目指し職員の異動を行うようにしているが、利用者の状態を考慮しながら、職員配置をするように心掛けている。また、運営者は離職を抑え勤労意欲向上の為に昇給や手当を支給するなどして配慮している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	職員採用に性別・年齢の区別は無い。雇用契約書を整備し職員の健康診断を支援している。慰労会などで職員のストレス解消につとめたり資格取得を支援している。	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	利用者の権利を擁護するために、グループホーム倫理綱領や「入居者の権利10か条」を共同空間に掲示しみんなで見て話し合ったりしている。	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	県主催の認知症介護研修があれば、順に職員が受講しグループホームでのケアに役立てている。また、案内があるいろいろな研修会にも内容に応じた職員を受講させるようにしている。	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域のグループホーム協会に入会し、協会主催の定例会や研修会の案内があれば参加している。そのなかで、同業者と交流する機会をとっている。	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	年に数回親睦会を開催し、職員同士での食事の場を提供している。	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員個々の勤務状況を見ながら、昇給や手当を検討し、それにより向上心が得られるように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談後、可能である方は本人が実際にグループホームを訪れ様子を見るときともに、本人から状況・不安ごとなどを聞き取り意向を受け止めるよう努力している。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や見学にこられた際、どういう状況で困っているのかなど話をする時間をとって、共感理解に努めている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、グループホームでの生活がふさわしいのか、また、めぐみの里の環境で生活していけるのかなど見極め、必要に応じて他の施設サービス・居宅サービスの内容も説明するようにしている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を取り入れたり、同敷地内のデイサービスを利用してグループホーム周辺の環境に慣れながら入居を待ったりして、土地や他利用者・職員の雰囲気慣れてもらうようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者が不安なく生活し集団生活を楽しく送っていただけるよう、相手の立場で考えながら一緒に過ごしている。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族と共同で利用者の生活を支援していただけるよう、連絡を取りあい、行事への参加も依頼して一緒に取り組んでいる。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族関係が疎遠になることがないよう、また、疎遠だった家族が少しでも理解しあえるよう、間に立って連絡をとり状況をお知らせするなどして支援している。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出時に利用者のなじみの場所を通ってみたり、親戚や知人の面会で懐かしく話してもらえるよう時間をとったりしている。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>孤立しがちな方も職員が輪に入ることと一緒に活動ができるため、職員が関わりながら利用者同士の関わりにつなげている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>医療機関に入られたあとも時々様子をみに行ったり、家族と話をしたりして、退所後も利用者の状況を見守るようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人・家族との面談時に意向の確認を行い、その意向に沿った生活を送っていけるようにケアプランの検討をしている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人・家族との面談時にこれまでの生活歴・病歴等やこれまでのサービス利用についてなども聞き取りをするようにしている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	グループホームでの生活がはじまり、全職員で日中・夜間の様子を観察しながら身体機能や、生活リズムを把握するようになっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の本人・家族との面談時に意向の確認を行い、その意向に沿った生活を送っていけるようにケアプランの検討をしている。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々に合わせた期間に応じて、定期的にモニタリングをしたり、状態に応じてミーティングで個別の話し合いをして、必要に応じて計画を作成し直すようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>40</p> <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の様子は個別の記録に記載している。また、管理者等で支援経過を記録している。職員は申し送りと記録に目を通し、必要に応じて話し合い、計画の見直しにつなげている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>41</p> <p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>例えば利用者の帰宅願望が増大した時は、同敷地内のデイサービスに参加して気を紛らせ環境を変えて対応したりしている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>42</p> <p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域の方には推進会議を通して、離苑時などの協力もお願いしている。消防や警察関係へも協力をお願いしている。</p>		
<p>43</p> <p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の医療機関や介護サービス事業者のケースワーカーや管理者等と、必要時に対応できるようお互いに連携をとるようにしている。</p>		
<p>44</p> <p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>利用者の入居にあたり、家族間での問題が発生した際、包括支援センターや権利擁護関係機関と協働して、対策・対応を行った。</p>		
<p>45</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医を基本として継続利用し、通院する中で医師等との連携を深めるようにしている。また、希望により協力医療機関への変更をされるときは、きちんと申し送りをして継続した医療を受けられるように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書等に守秘義務や個人情報の利用目的について明記し、入居時に説明し同意を得ている。利用者の尊厳に関しても関連する研修を通して職員に徹底している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別の理解力に応じた説明のしかたを選び、何か希望や思いがないか汲み取るようにしている。「こうしましょうか」と提案しながら意向を聞き本人の意思を尊重するようにしている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望や意向をできる限り受け入れ、強制することなく外での活動をしたり、買い物に出たりしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば希望の美容室へ行けるようにしている。利用者によっては家族が対応される。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事にあわせて利用者にも聞きながら献立をつくり、食事を楽しめるように工夫している。介助が必要な方が多く食事を一緒にとつてはいないが、利用者には野菜の下準備など手伝いをしてもらうこともある。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は、実費で個々に楽しんでもらっている。現在のところ喫煙者はいない。お酒もいつも欲する方はおられないが、飲める方には行事の時などに出すようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員で、排泄状況を探り共有しながら、おむつ交換・トイレ誘導の時間を検討している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に介助を要する方が多い為、現在は週に2回曜日を決めている。身体状況(皮膚の清潔が必要な時)や夏は個別の状況を考慮して指定日以外でも入浴(シャワー)ができるように考慮している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の状況にあわせて、居室やリビングでの休息時間をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の家事の手伝いが日課となっている方もおられるため、手伝ってもらい、役割を持った毎日が過ごせるように支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金を手元に持っておきたい方へは、本人管理のもとで所持してもらっている。買い物の希望があれば、それを使用して行う。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院や買い物など個別に対応して実施している。通院で出かけたときを利用して、本人が通りたい道を通ったり、「ここが○○よ」と花のあるところやその人に思い出のある場所を通ることもある。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	長く出られない方も多いため、通院で出かけたときを利用して、本人が通りたい道を通ったり、「ここが○○よ」と花のあるところやその人に思い出のある場所を通ることもある。家族と外出される方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親戚へ、お礼やあいさつで電話や手紙の希望がある時は、対応している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は利用者に関係する方は、いつでも面会できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して研修を行い、どのような行為が身体拘束になり得るのか職員がきちんと理解できるようにつとめている。身体拘束をしないケアに取り組んではいるが、やむを得ない方には、同意を得ている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけずに見守りのもと、玄関から出ようとする行為がないよう取り組んでいるが、かなりひどく行為が見られるときは、一時的に施錠し対応することもある。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全利用者の所在を把握し、安全に配慮して支援している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の行動範囲には、危険物は置かず転倒がないよう注意している。居室内の危険物は掃除のときなどに整理して危険がないように注意している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関して研修を行い周知徹底を図っている。行方不明・火災に関しても通達にあわせて研修をしたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状態をスタッフ間で把握し、個々に合わせた量や形態を調整したり、水分補給に努めている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しての厚生労働省からの通達を利用して、感染予防に関する研修をして取り組んでいる。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、台所の衛生管理は常に気をつけて片付けをしている。食材は買いだめしすぎない程度で買い物に行くようにし、腐敗ないように使い切りながら、できるだけ新鮮なものをつかうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や庭先に花を植えたりして明るくなるような工夫をしている。基本的には玄関の施錠はせず、自由に出入りができるようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に過剰に明るくなりすぎないような照明を使用し、外の光を有効に利用している。また、利用者の目に付くところを中心に、花を飾ったり、毎日の活動で作った作品を飾ったり、また、出かけたときの写真なども貼ってみんなが見られるようにしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所としてリビングのテーブルで過ごしたり、テレビ近くのソファで過ごしたり、廊下を自由に行き来して過ごしたりそれぞれで時間を過ごしている。個別に親しい方同士で居室でおしゃべりして過ごされる方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に設置するものは、基本的には全て自宅から持ち込んでもらっている。これまで使用していたものを使って下さいと家族にも話し、できるだけそうしてもらっている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室から出ているうちは、換気の為窓をあけている。暑い時期は、できるだけ外からの風や扇風機を使用し、冷房はしすぎない。寒い時期は、換気後暖房を入れても、短い時間で切り常時入れないようにしている。また、加湿器なども個別に利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の残存機能を考えながら、できることはしてもらうように声掛けしている。行為が分からない方には、近くからの指示と見守りをして安全に自分でできるようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	指示することで混乱することがないよう、言葉での意味が理解できない方には、できるだけ近くで細かい指示を伝え示しながら自分でやってもらうようにしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭では、ベンチや椅子を設置して外でくつろいだり、食事やおやつ時間を過ごしたりしている。裏庭に植えた花を見て楽しんだり、日光浴をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者および家族の個々の意向をできる限り聞き取り、それに沿った生活支援を提供できるように取り組んでいる。また、医療連携のもと、個々のかかりつけ医との連携をできるだけ取るようにするため、受診時には積極的に話をしたり、小さなことでも相談したり、情報交換したりしてかかわりを持つようにしている。それを踏まえて、本人家族の希望に応じた看取り介護も行っている。看取り介護をすることで、職員にはかなり大変な心労となっているが、それを職員の介護技術・自信の向上へとつなげるようにしている。地域からのグループホームの理解・協力も少しずつ得られるようになっており、徐々に地域交流が進んでいる。